

ESG 部門統括メッセージ GRI 2-22

サステナビリティを事業に組み込み、ESGとEVAの両立を図る



デイブ・マンツ

常務執行役員
ESG部門統括、PR戦略部門担当

花王は、ESG視点の「よきモノづくり」を通じて、バリューチェーン全体で事業運営を最適化し、社会が直面する課題に対する解決策を通じて生活者に新たな価値を提案することをめざします。

そして、その結果として、ROICとEVAを向上させ、財務への貢献を果たしていきます。

ESGがグローバル・シャープトップ戦略を強化する

急速に変化する事業環境において、ESGの視点でさまざまな社会課題に対して取り組むことは、ステークホルダーからの信頼を高め、花王の存在感を高めることにもつながります。そこで花王は生活者を主役としたESGの具体的な活動の方向性と、将来への意欲的な目標を表したESG戦略「Kirei Lifestyle Plan」を策定しました。Kirei Lifestyle Planは、「脱炭素」「ごみゼロ」「人権」といった重要な社会課題の解決に取り組みながら、事業成長の両立をめざすものです。

花王の「グローバル・シャープトップ」とは、高いロイヤリティとリピート購入率を持つユニークで高性能な製品を通じて、特定セグメントでの唯一無二のブランドを創造することです。

より持続可能な社会への移行が進む中で、Kirei Lifestyle Planを実行に移し、サステナビリティを事業に組み込んだ花王らしい提案を展開することで、顧客満足度やロイヤリティが高まり、「グローバル・シャープトップ」戦略をさらに強化することができます。

すべての人のKirei Life実現をめざす

花王の企業理念「花王ウェイ」では、使命を「豊かな共生世界の実現」とし、Kirei Life(すべての人と地球にとってより清潔で美しくすこやかな暮らし方)を創造しますと定めています。つまり、事業を通じて、生活者のサステナブルな暮らしに貢献することは、創業から変わらない私たちの信条です。

花王は「K27」の達成に向けて、「Sustainability as the only path」というビジョンのもと、ESG視点を事業戦略に組み込み、サステナブルな社会の実現をリードしていきます。そして、世界中の生活者にESG視点の価値提案をお届けし、すべての人のKirei Lifeを実現し、企業価値を向上させていきます。

ESG視点の価値提案を事業の成長につなげる

生活者に対するESG視点での価値提案が着実に成果を上げています。「ビオレUV アクアリッチ 瞬間ミストUV」は、外出先での手軽な日焼け止めの塗り直しという課題を捉えた製品であり、「ロリエ」はパーパスドリブンなブランディングで共感とロイヤリティを高めています。

また、生活者との双方向のデジタルプラットフォーム「My Kao」では、独自のAIアルゴリズムを搭載した肌測定サービスと、その結果に基づく商品を提案。生活者のQOL向上に貢献し、さらに、商品のリピート購買増加にもつなげています。

ESG 部門統括メッセージ GRI 2-22

プラスチック使用量を約40%※1削減し使用後のつばしやすさを実現した食器用洗剤「キュキュット」つめかえは、環境にやさしい点が生活者に評価されシェアも伸長しました。このようなESG視点で課題を捉えた製品は、新たな市場の開拓や顧客ロイヤリティの向上に貢献しています。今後も、生活者へのESG視点の価値提案をグローバルで推進していきます。



プラスチック
約40%
削減

※1 容器について従来品重量比

生活者といっしょにサステナブルな社会を実現する

花王製品を手にとりいただいた生活者と共に、社会全体でESGへの意識を高めることがサステナブルな社会の実現につながると考えています。2022年からは「もったいないを、ほっとけない。」をメッセージに、環境・社会課題に対する花王の取り組みをわかりやすく発信。花王製品を使用することで、環境負荷が低減することを生活者に気づいていただくことをめざしています。

このメッセージを通じて、花王の環境や社会に配慮した製品のベネフィットを知ってもらうことが、花王製品の購買につながるという結果も出ています。今後も、

ESG視点の活動やコミュニケーションを通じて、企業価値を向上させるだけでなく、生活者が花王製品を使用することで結果的にサステナブルな暮らしを送ることができるように貢献していきます。

多面的なESG活動で事業を持続可能にする

ESGは、花王の事業を持続可能なものにするために欠かせません。2023年の花王グループ全拠点のCO₂排出量(スコープ1+2)は、基準年(2017年)と比較して35%削減し、2030年には55%削減という目標に向けて着実に前進しています。また、循環型社会への取り組みとして、PET容器への再生プラスチック利用を推進しており、主要な市場である日本では利用率81%を達成しています。



責任ある原材料調達も、重要な取り組みのひとつです。花王の基幹素材であるパーム油の調達では、持続可能なサプライチェーンの構築に向け、パートナーと協働しています。具体的には、森林破壊防止や人権侵害ゼロをめざして、パーム農園までのトレーサビリティ確保や、インドネシアの小規模農園への支援、RSPO認証パーム油の購入などを行っています。こうした活動の最新の進捗状況は、調達に関する活動を紹介するページ「パームダッシュボード」で公開しています。

花王がサステナビリティ領域でリーダーであり続けるためには、KLPに基づく取り組みを着実に推進することが欠かせません。同時に、これらの取り組みは、EVA及びROIC視点で資本効率を向上させ、グローバルに事業を成長させていくことができると確信しています。



パームダッシュボード

<https://www.kao.com/jp/sustainability/we/procurement/palm-dashboard/>